

令和 5 年 6 月 26 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K11110

研究課題名（和文）保健師の地域アセスメント実践力向上のためのケースメソッド手法を用いたツール開発

研究課題名（英文）Tool development using the case method to improve community assessment skills of public health nurses

研究代表者

奥野 ひろみ (Okuno, Hiromi)

信州大学・学術研究院保健学系・教授

研究者番号：60305498

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：目的:実践力を高める地域アセスメントツールの開発を行い、研修会を通してその効果を明らかにすることを目的とした。方法：調査方法 独自に開発した研修プログラムを実施し、研修前後で自記式質問紙を用いた調査を実施した。研修の内容：1日目フリーソフトを使って、データの処理・分析方法を学ぶとし、8項目を目標とした。2日目 データからアセスメントを行い、ヘルスプロモーションの計画を考えると、8項目を目標とした。結果：研修の到達度は1項目を除いて、研修前に比して後が有意に得点を伸ばした。このプログラムの効果は明らかであるが、実践で利用するためには職場の環境整備を行う必要があると考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自治体に働く保健師自ら、自治体の健康課題を明らかにし改善する力が求められている。しかし国から降ろされる活動の実践に日々追われ上記の能力を育成することが難しい現状がある。本研究はそれらを払しょくし実践力を向上させることに有用なツールの開発となったと考える。しかし、この能力を現場に着実に根付かせていくためには、次のステップとして職場環境の改善（優先順位の立て方や認識や意識の変化など）と連動させた研究が必要と考える。

研究成果の概要（英文）：Purpose:The purpose was to develop a community assessment tool that enhances practical ability, and to clarify its effect through workshops. Method: Survey method We implemented an independently developed training program and conducted a survey using a self-administered questionnaire before and after the training. Contents of the training: On the first day, participants learned how to process and analyze data using free software, with 8 goals. On the second day, we made an assessment based on the data and considered a plan for health promotion, with 8 goals. Results: With the exception of one item, scores after the training were significantly higher than those before the training. The effect of this program is clear, but I think that it is necessary to improve the workplace environment in order to use it in practice.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：公衆衛生看護 課題解決 実践力 ケースメソッド

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1.研究当初の背景

保健師が複雑多様化した地域集団の健康課題に対して効果的な活動を実施するためには、地域アセスメント力から計画の立案が重要と考えた。しかし多くの市町村では多忙な事業実施のため十分なアセスメント~計画立案が実施できない状況が続いており、効果的な事業実施に至っていない。

2.研究の目的

保健師が複雑多様化した地域集団の健康課題に対して効果的な活動を実施し、住民の健康増進に寄与するために、現場保健師に応用可能なケースメソッド手法を用いた「実践力を高める地域アセスメントツール」の開発を行い、研修会を通してその効果を明らかにすることを目的とする。

3.研究の方法 1.調査方法 独自に開発した研修プログラムを実施し、研修前後で自記式質問紙を用いた調査を実施した。 2.対象者 研修会に 2 日間参加した者で、保健師勤務 1 年以内、保健師以外の専門職を除き、研究に同意した者。 3.実施期間 2022 年 8 月及び 2 月、いずれも 2 日間（9：00-16：00） 4.調査内容 属性、研修の在り方、研修の前後で学習到達度の 16 項目、研修の感想とした。 5.分析方法 研修の前後でアンケート調査を実施し、属性、研修の在り方については単純集計を、研修の到達度は研修の前後で対応のある t 検定を実施した。項目は 5 件法 できる 5~できない 1 とした。SPSS を用いた。研修の感想は自由記載とした。 6.研修の内容 1 日目 フリーソフトを使って、データの処理・分析方法を学ぶとし、以下の 8 項目を目標とした 統計処理ができるようにアンケート調査項目を作成することができる。 アンケートの結果を統計処理に 対応できるようにエクセル表に入力できる 尺度（名義・順序など）に合わせた統計分析の方法がわかる。 統計ソフトにエクセル表をコピーし、変数を入力できる 統計ソフトのデータを加工できる（例 コレステロール数値を正常と異常に変換する） 統計処理（相関・t 検定・ χ^2 検定）を実施できる。 分析結果を読みとることができる。 データを探索的に分析するための順番がわかる 2 日目 データからアセスメントを行い、ヘルスプロモーションの計画を考えると、以下の 8 項目 を目標とした。 集団の特徴を知るために、市町の実情に即したデータの収集方法がわかる。 集団の 特徴を知るために、現時点で不足しているデータが何かわかる。 集団の特徴を知るために、入手した 情報を整理することができる。 整理した情報からアセスメント（見たて・分析）することができる。 分析結果からターゲットを絞ることができる。 ターゲットに対して 1 次予防（ポピュレーションアプローチ・ライフコースアプローチ）の計画を立案できる。 計画したプログラムを実現可能性の高い プログラムに修正することができる。 計画したプログラムの中から効果が高く実現可能なプログラムを選ぶ事ができる。

4.研究成果

- 1) 研修会参加者は計 28 名であった。うち 1 回のみ参加者 7 名、保健師以外の参加者(栄養士・運動指導士)3 名、研究への同意のなかったもの 4 名を除いた 14 名が研究の対象者となった。
- 2) 属性 参加した保健師の属性は、男 2 名、女 12 名、年代は 20 代 3 名(21.4%)、30 代 3 名(21.4%)、40 代 7 名(50%)、50 代 1 名(7.1%)であった。
- 3) 研修の到達度はすべての項目で、研修前に比して後が有意に得点を伸ばした。

表 1 研修会前後の目標の達成状況

	実施前	±SD	実施後	±SD	p値
統計処理のためのアンケート調査項目の作成ができる。	2.14	0.864	3.21	0.579	0.001 **
自由記載尺度に合わせた分析方法がわかる。	1.71	0.914	3.93	0.475	< 0.001 ***
統計ソフトにエクセル表のデータをコピーし変数を入力できる。	2.14	0.949	3.57	0.756	< 0.001 ***
統計ソフトのデータの加工できる。	1.86	0.949	3.71	0.914	< 0.001 ***
統計処理(検定)ができる。	1.57	0.852	3.57	0.852	< 0.001 ***
アンケート結果を統計処理できるようにエクセルに入力できる。	2.71	0.994	3.77	0.725	0.004 **
分析結果の読み取りができる。	2.57	1.016	3.64	0.745	0.006 **
データを探索的に分析するための順序がわかる	2.21	0.975	3.64	0.745	0.000 ***
データ結果からアセスメントができる	2.79	1.122	3.79	0.426	0.003 **
アセスメント結果から1次予防のプログラムを考えることができる	2.93	1.072	3.57	0.646	0.033 *
計画したプログラムの中から実現可能性の高いプログラムに修正できる	2.57	1.016	3.29	0.726	0.012 *
計画したプログラムから効果が高く実現可能性の高いプログラムを選択できる	2.57	1.089	3.43	0.852	0.028 *
職場にある個人情報から集団の特徴を確認するために活用する方法がわかる	2.5	0.941	3.36	0.497	0.005 **
現場で集団の特徴を知るために不足しているデータが何かわかる	2.64	1.082	3.57	0.646	0.004 **
現場で集団の特徴を知るために不足しているデータをどう入手すればいいかわかる	3.64	0.842	2.86	1.027	0.035 *
根拠に基づいてPDCAサイクルを回すことができる	2.64	1.082	3.79	0.426	0.001 **

ある t 検定 できない 1 できる 5 p 値 * < 0.05 ** < 0.01 *** < 0.001

4) 研修の在り方 目標の設定、内容、時間配分、資料 いずれもまあ良い、良いで 90%を超えていた。

5) 自由回答は下記のとおりであった。

密度の濃い研修だった。1 回目はあれ以上詰めこむと困難です

エビデンスに基づく施策の立案、PDCA サイクルを回す手法参考になった がんばります
どんな事業でも PDCA サイクルを回すこと、目的を明確にして目指す姿を見据えて計画し
PDCA サイクルをまわすことの大切さを学びました 参考になった。

勤務する職場の実際のデータで演習をやってみたい 学校で習ったことは事業を展開する
上で大切と改めて感じた。

業務に終わっているが別の視点で分析する時間がとれない、時間の見直ししたい 1 日目の
内容がボリュームが多かった。

分析に関して学べて良かった 実践でも活用できると感じた フリーソフトがわかって良か
った。

職場で持っているデータ使えそうと感じた。盛沢山だった楽しく企画できるところからア

アイデア生れる 検定をしっかりとする必要があったと感じた。

保健師の専門性大切にしなければならぬ方向性確認できた 統計の基礎確認できた。

予防の視点忘れないようにしたい やるべきことが見えてきて、課題がたくさんあると実感した。

できることから少しずつ進めたい 検定をどう使えばよいかわからなかったが、こういう分析の時に使えばよいとなんとなく分かった。

教育や環境づくりが必要だと思っていますが、住民に関わりができていない。

職場でもそういう声あまり出てこない。自分に何ができるだろうかと考えてしまった 事前視聴のPPTもほしい 現場に落とし込めるように頑張りたい。

今回の研修は、保健師の業務に有用と考える。しかし、現実的に多くの事業を行っている中で時間を獲得できない状況の改善が望まれる

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	石田 史織 (Ishida Siori) (20710065)	信州大学・学術研究院保健学系・講師 (13601)	
研究分担者	横川 吉晴 (Ykokawa Yshiharu) (50362140)	信州大学・学術研究院保健学系・准教授 (13601)	
研究分担者	山崎 明美 (Yamazaki Akemi) (60299881)	信州大学・学術研究院保健学系・特任講師 (13601)	
研究分担者	高橋 宏子 (Tkahashi Hiroko) (80195859)	信州大学・学術研究院保健学系・准教授 (13601)	
研究分担者	五十嵐 久人 (Igarashi Hisato) (90381079)	信州大学・学術研究院保健学系・准教授 (13601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------